

菊友會報

第100号 2018年(平成30年)1月1日
 発行 = 菊友会
 編集 = 広報委員会
 <事務局> 東京都千代田区九段北 2-2-1
 千代田区立九段中等教育学校内 (〒102-0073)
 TEL (03)3263-2448 / FAX (03)3263-1033

Web Site -- <http://www.kudan-net.com/> Mail Address -- kikyukai@kudan-net.com

祝 菊友会報100号!! & 至大荘90周年!!

菊友会報は今号で100号となりました。多くの情報を会員の皆さんと共有する目的で1956年に創刊し、その使命を果たしています。これを記念して赤司会長に寄稿していただきました。特集ページを組みましたので、当時に思いを馳せていただければと思います。そして至大荘も1927年開荘以来脈々と受け継がれ昨年90周年のお祝いをいたしましたので、公益社団法人九段 野本理事長に寄稿していただきました。

『菊友会報100号の発行に思う』 菊友会会長 赤司久雄 (高15)

菊友会報100号発行、おめでとうございます。創刊号から丸61年、その間編集・発行に携わって来られた関係各位に心から感謝申し上げます。タブロイド判4ページの創刊号を改めて読んでみましたが、創刊の



(撮影:倉又 茂・高21)

喜びと共にどこまで続けられるかとの不安感いっぱいの様子が見てとれます。当初は2年に1回程度の発行頻度だったようですが、地道な努力を続けられた結果が今日の100号に繋がったと思います。平成18年7月発行の第77号から紙面のカラー化が実現しました(当時の広報委員長は高10回の岡田肇副理事長)。厳しい予算の中での決断は相当な勇気が必要でしたが、紙面の充実感は格段に向上し、カラー化に踏み切ったことは大成功でした。そして何よりも我々が誇らしく思うことは、創刊当初から今も変わらず全会員に会報を届けているということです。(現在は事務局で所在が掌握

出来ている約15,000人の会員宛て)菊友会の事業は会員の皆様の年会費で賄われており、その事業予算のかなりの部分が会報の作成・発送費用に充てられていますので、本来であれば会費納入者に限って送付という考え方も出来ませんが、全員発送の基本スタンスは今も続けられています。他校の同窓会では聞いたこともありませんし、菊友会の特徴として今後も続けて行きたいものです。会報は会員と会員を繋ぐ「架け橋」として極めて重要なツールです。これからも会報発行に携わられる関係者の皆様、どうぞよろしくお願ひいたします。

『満90歳の至大荘』 公益社団法人九段 理事長 野本俊輔 (高17)

至大荘90周年式典は、2017年7月29日(土)、至大荘の養気閣で、勝浦市の猿田市長をはじめ守谷区、消防、警察、漁業組合、民宿組合、観光協会など地元でお世話になっている皆様、そして石崎校長をはじめ母校教職員、旧教職員、游泳部助手、菊友会役員、九段PA役員など関係する皆様をお迎えして盛大に開催されました。

臨海施設「至大荘」が完成し、夏の至大荘行事が始まったのは、母校開校のわずか3年後、昭和2年(1927年)のことです。以来、至大荘行事は、戦時中や戦後の混乱期に一時的な中断はあったものの、母校の代表的伝統行事として受け継がれて実施され

ており、至大荘は昨年夏、ちょうど満90歳の誕生日を迎えたわけであります。

至大荘行事に参加した生徒達は、臨海施設での共同生活や太平洋での遠泳などを経験する中で、達成感や自尊感情などを感じ取り、あるいは自信のようなものをつかみ、精神的にも大きく成長していきます。このような生徒の成長に有用な校外施設を維持している学校は、諸般の事情から大変珍しい存在になっています。だからこそ、公益社団法人九段としては、菊友会の皆様の御支援を頂戴しながら、母校生徒のために引き続き至大荘として尽性園の健全かつ適正な管理運営に努めてまいる所存です。



記念式典であいさつする野本法人九段理事長と記念品



今年もよろしくワン!

カット:持田 悟(高18)

あけましておめでとうございます

2018年度菊友会行事カレンダー

- 4月 12日(木) 菊友ゴルフ大会:若洲ゴルフリンクス(受付中)
- 5月 19日(土) 評議員会:九段中等教育学校会議室(終了後懇親会)
- 8月 25日(土) ~ 26日(日) 至大荘懇親会:至大荘
- 10月 4日(木) 菊友ゴルフ大会:石坂ゴルフ倶楽部
- 10月 21日(日) 菊友会大会:ホテルグランドパレス
- 11月 3日(土) 第26回東京校歌祭:杉並公会堂
- 11月 17日(土) 関西菊友会総会:大阪キャッスルホテル
- ※高20回 卒業50周年記念同期会 6月23日(土) ホテルグランドパレス
- ※高45回 卒業25周年記念同期会 開催年です

*評議員の方はぜひ評議員会への出席をお願いします。

KUDANで再会！ ～平成29年度菊友会大会 今年も盛大に「90歳から19歳まで一堂に！」



90歳！私たちのあこがれです！
(撮影：高木昭美・高24)



(撮影：倉又 茂・高21)

平成29年度菊友会大会を盛大に開催

10月29日、平成29年度菊友会大会をホテルグランドパレスで開催しました。まず楢取理事長の挨拶。第1部は例年と趣を変え、特別高座として、三遊亭ときん師匠による古典落語。ときん師匠は高校46回の本名吉田大介氏、高校在学中から落語に親しみ、大学では落語研究会に所属、卒業後、三遊亭金時師匠に入門、2017年3月に真打に昇進、「三遊亭ときん」と改名。菊友会始まって以来の落語真打となりました。お題は時節柄「ふぐ鍋」、おなじみの旦那と幫

間のやり取りをテンポよく鮮やかに語り、あつという間の30分。ときん師匠は懇親会にも最後まで参加され記念撮影にも応じるなどサービス満点でした。

第2部懇親会は、まず、赤司会長の挨拶。ご来賓挨拶は千代田区教育長坂田融朗様、九段中等教育学校副校長小杉英夫様、同校PA会長廣瀬征由様、他にご来賓は、千代田区教育委員会小川教育担当部長、同校大井経営企画室長、同校PA飯塚副会長。恩師は、近藤義郎(中19)、会田睦晃(高25)、井上昭博(高32)の3先生。高橋顧問の乾杯

景品をご提供いただいた皆様(敬称略)

- | | |
|-----------|----------|
| 中17 飯島喜一郎 | 高4 大井基臣 |
| 高7 桑田芳郎 | 高7 宮島 徹 |
| 高9 岡田 繁 | 高13 稲坂良弘 |
| 高13 村井 温 | 高15 赤司久雄 |
| 高15 氏家義之 | 高17 井上良夫 |
| 高17 楢取能彦 | 高17 高橋暁子 |
| 高17 野本俊輔 | 高17 八橋康則 |
| 高31 福田 隆 | 高39 相原 學 |
- 公益社団法人 九段

「支援ありがとうございました。」

で開宴した懇親会は大盛況でした。会員の出席は98人(参加者合計104人)、最年長は90歳の飯島喜一郎氏(中17)、最年少は中等8回の新卒6人でクラス委員として紹介されました。恒例の福引は、今回も提供者の皆様のおかげで豪華な景品ばかりで当選者が決まるごとに大きな歓声が上がりました。最後に持田副理事長の音頭で校歌・至大荘歌を全員で熱唱、酒井副会長の挨拶でお開きとなりました。会員の皆様、今年こそ菊友会大会に集まりましょう。

(前田敏行・高18)

特別高座 三遊亭ときん師匠(高46)

同期の吉田大介君が特別高座をやると知って会場に駆けつけました。思えば高校3年の夏、「寄席やりましょう！」と、ホームルームで教壇を高座替わりにして一席終えた吉田君の一声で、私達クラスの九段祭の出し物が決まりました。まとまりがあるとは言えなかったクラスがまとまり、漫才、一発芸、大喜利。九段祭では前例のない寄席は賞こそ取れなかったものの、成功に終わり、高校生活のいい思い出になりました。そして、「弟子入り決まった！落語家になるよ！」高校時代は一緒に寄席にも行った彼からの連絡。大学も落研に入り、卒業後も落語家を目指していたのは知っていましたが、いざ、それが現実になった時は本当に驚きました。「師匠と呼べる日を楽しみにしているよ！」とエールを送ってから十余年。真打に昇進し、吉田君を「ときん師匠！」と

呼んだ時、感慨深いものがありました。

今回の特別高座の本題は、古典落語の一つ「ふぐ鍋」。幫間が久しぶりに旦那の家に。旦那は幫間に飲み食いしていくよう誘うが、出てきたのはなんと「ふぐ鍋」。先に食べさせようとする旦那と幫間とのやりとり。そこに物乞いがきて、旦那はここぞとばかりふぐを施します。出て行った物乞いの様子が変わらないと見た旦那と幫間が食べたふぐ鍋の美味しかったこと。その後、物乞いが再び来て、旦那衆が変わらないことを知ると、「そうですか。私は、これから、ゆっくりいただきます」と。「やった」つもりが、反対に「やられる」。痛快なオチに会場は笑顔と拍手に包まれました。さすが、プロの「真打」の落語でした。ときん師匠の今後の活躍を大いに期待し、同期としても応援したいと思っています。

(早重成義・高46)

第10回復活マスコミ菊友会

6月14日、記念すべき復活後第10回目のマスコミ菊友会が、昨年と同じ小田急ホテルサザンタワーで開催され、42人の参加で大盛況のうちに終わりました。

最年長は「幸せなら手をたたこう」の作詞者木村利人氏(高4)。最年少は一昨年から2年連続で至大荘行事の助手リーダー(観海亭亭長)を務めた中等4回宇田川まりさん。幅広い年代が集まり、年齢差を超えて大いに懇親の輪が広がりました。

昨年3月に落語協会の真打に昇進した三遊亭ときん師匠(本名吉田大介・高46)が初参加。菊友会初の落語真打の楽しいス

ピーチに、会場いっぱい笑いの渦に包まれました。マスコミ菊友会は今年も6月に開催する予定ですので、マスコミマインドを持つ菊友会員多数の参加をお待ちしています。

(楢取能彦・高17)



第35回 関西菊友会総会報告



11月18日大阪キャッスルホテルにて33人の出席のもと、菊友会本部より会長、理事長の参加を得て開催されました。中村会長・本部赤司会長の挨拶に続き、元NHK解説主幹のジャーナリスト齋藤宏保氏(高17)から「ネタ(情報)をどうモノにし、人脈を築いたのか～記者の生きざま～」をご講演頂きました。自身の原点は「キューバ危機の破滅的な危機感から…如何により良い社会の為に自分が関われるか…に在るそうです。社会事象を掘り下げる生々しい取材姿勢！ジャーナリズムの何たるかを感じ取る事が出来ました。今回初めて一中卒の参加が無く、第二部懇親会は佐藤公平氏(高9)の発声で始まり、楢取理事長、横田法人九段事務局長から母校・至大荘の様子が報告されました。会員の方々のご挨拶。各テーブルで盛り上がり、米田達郎氏(高42)の万歳三唱、齋藤氏の応援エール唱和で閉会。特筆は佐藤雅也氏(高38)からの花束。東京から松岡浩氏(高38)、他に秋の関西行楽を兼ねてのご参加と、幅広い支えに感謝している次第です。皆様、今年は11月17日です！

(湯浅良男・高14)

守谷の浜辺で今年も楽しく至大荘懇親会を開催 8月19～20日

至大荘行事に参加して

至大荘には、在学中は部活の合宿で毎年、そして卒業後に同級生たちと一度宿泊利用したことがありましたが、その後は縁がありませんでした。今回、菊友会の会報を見るたびに、ずっと気になっていた至大荘行事に、卒業後20数年たって初めて参加しました。

当日参加者名簿を見て、参加されている方の中に、子・孫を連れて参加されているしゅるファミリーや、私の父より年齢の高い方もいらっしゃることに驚きました。

たまたま今回だけでもかもしれませんが、今回の参加者の中では、私の卒業回が一番若かったのも、もっと若い方との交流が欲しかったです。日帰り参加もできるので、若い世代の方が、懐かしの至大荘で同窓会の

至大荘プレゴルフ大会

至大荘懇親会のイベントとして、勝浦東急で参加者19人。例年にない猛暑でリタイア組も出ましたが、至大荘での成績発表には全員が顔を揃え、ホッと一安心。結果は、(敬称略)優勝 赤司久雄(高15)、準優勝 小林紀子(高34)、第3位 遠山ちづ子(高19)。ベストグロ 赤司久雄、シニアベストグロ 尾羽澤正敏(高9)。女性最高賞 小林紀子でした。(小林紀子・高34)



(撮影:原田忠禮・高21)

秋の菊友ゴルフ大会

10月5日、秋晴れの下で恒例の菊友ゴルフ大会を開催。春より少なめの22人でしたが、笑いの絶えないラウンド風景はいつもと変わらず、楽しい交流の場となりました。結果は、(敬称略)優勝 海野暁(高9)、準優勝 井上良夫(高17)、第3位 およびベストグロ 赤司久雄(高15)、女性ベストグロ 小林紀子(高34)。シニアベストグロ 中川繁(高3)。中川さんは全参加者の中で最上級生、素晴らしいプレーに圧倒されました。次回は春4月。多数のご参加をお待ちしております。(小林紀子・高34)



つもりで参加してもいいのではないかと思います。

この夏、海に行ったのが至大荘だけだったのですが、小6・小3の娘たちは海水浴だけでなく、潮が満ちてくるにつれて海岸の岩場の波が荒くなっていく様子や、夜の海を見るなど、宿泊を伴うことで、普段海に行くのとは違う経験ができたのではないかと思います。もっと早くに連れて行けばよかったです。この話を実家でしたところ、皆興味を持ったようなので、今年は親と妹とその子供たちも連れて、一族郎党で参加したいと考えています。(山下たまき・高47)



至大荘ファミリー集合しました! (撮影:倉又 茂・高21)

法人九段だより

「第三かぶらぎ丸」守谷から氷見へ



“惜別の歌”の中、積込まれる“かぶらぎ丸”

昨年7月17日、富山県の氷見市立博物館に一艘の和船が搬入されました。九段高校時代から至大荘行事で監視船として活躍した、3代目「鏑木(かぶらぎ)丸」です。昭和49年(1974年)建造、平成24年(2012年)に廃船となった至大荘最後の木造船です。このたび法人九段から氷見市立博物館へ寄贈し「太平洋側の和船」として日本海側の船と比較展示されることになりました。法人九段は同船を至大荘の艇庫に保管し、勝浦近辺での保存先を探していました。たまたま菊友会報91号(平成25年7月)の同船の記事を読んだ卒業生、氷見市立博物館長の^{もとむら}大野 究氏(高32)から引き取りたいとのオファーを受けましたが、当時は勝浦近辺での保存にこだわっていたため、いったんはお断りしました。3年後の平成28年10月、これ以上の保管は無理と判断し、大野館長に寄贈を申し入れました。それからトントン拍子に話が進み、打ち合わせを重ね、至大荘行事の前に集まる関係者・助手の力を借りて昨年7月16日に搬出し、7月23日には、大野館長のアルバムから取った当時の写真とともに展示され、地元新聞に「太平洋の木造船が日本海に」の記事で九段の遠泳行事なども紹介されました。かぶらぎ丸は、氷見市文化財センターで保存され原則として月1回公開され展示されています。近くに行かれた時には尋ねてみたいかがでしょうか。

(横田千明・高19)



みんなで思い出の歌 (撮影:倉又 茂・高21)

第25回東京校歌祭に参加して

校歌祭当日は受付後リハーサル室で練習を済ませ少し緊張し舞台へと進みました。現役の吹奏楽部諸君の演奏をバックに『校歌・至大荘歌・至大荘と共に』の3曲を気分よく歌うことができました。

東京校歌祭に参加して、九段の参加者が他校と比べて少ないように感じました。また以前に比べても減少しているのではないのでしょうか。増員の方策として事前にフェイスブックやホームページを活用し参加をより強く呼びかけたり、事後に自分たちが歌唱している様子をフェイスブックやホームページなどで見ることができるようになるといいと思いました。至大荘歌を歌うたび、他では味わうことのできない伝統が生き続けている素晴らしさを感じます。一度会場に足を運び、あの頃を振り返ってみませんか。今年の校歌祭も楽しみです。(青木俊行・高26)



吹奏楽部とのコラボ (撮影:倉又 茂・高21)

いのちと向き合う

私達の「いのち」と密接につながる立場におられる3人の菊友会員をご紹介します。

(文・写真：高橋暁子・高17)

人から人へ命をつなぐ社会作り

(公社)日本臓器移植ネットワーク広報・

カウンセリングで人生探しの手伝い ひまわりの部屋 森津 純子さん(高34)



自分や家族が病に罹った時、その状態によっては対処に苦慮することがあります。患者の立場では医学の知識もなく、どうしたらいいのかわからず不安ばかりが先に立ち、落ち込んでオロオロしてしまうことは多かれ少なかれ誰でも経験することでしょう。

森津純子さんは弱冠28歳の時、長岡西病院のホスピス医長となり、出会った患者さんたちの「生と死」を見つめてきたホスピス医であり心療内科医です。一方で、患者の家族としてお母様を介護され看取られた経験を持ち、双方の思いを共有できる貴重な存在でもあります。医師から患者側の立場になって、患者と家族が抱く疑問や心配事、心の葛藤を自身の事として理解できると言います。当時、病に伏せておられたお母様が漏らした『お医者さんってすぐ、“検査だ、薬だ”って言うから嫌よ。患者はただ話を聞いてもらいたいところだけをちよこっと治してくれて、“大丈夫だよ”って言ってほしいだけなのに・・・』という言葉

は特に耳に残ったそうです。昨今はインフォームドコンセント(説明と同意)の時代と言われますが、患者の立場では、不安と知識不足から気後れして何も言えず、結局、医師の説明に従うことになるのが大勢です。介護をされた経験から、人々が医療についての悩みや聞きたい事を気軽に相談できたらと痛切に感じ、クリニックを開院。その後、病と向き合うには、日常の生き方や生活を見直すことが大切と気づき、クリニックを「ひまわりの部屋」としてリニューアル、その人らしい人生を模索するサポートを始めました。

子供の頃から演じることに興味を持ち、中学校では演劇部に所属。本物の感情を表現できる役者になりたいと想いながらも、演劇ではなく医師の道を選びました。気がつく物心がついた頃から常に心の奥底で『演劇を選んではいけない。医師にならねばならない』という言葉が響いていたそうです。それは「天からの声」だったのかもしれませんが。現在、森津さんは「ひまわりの部屋」で対話を通して、その人らしい人生の歩き方を模索する手伝いをされています。



私達は常日頃、自分や家族が「臓器を提供する・臓器移植を受ける」という事態を考えることはほとんどありません。しかし、実は誰もが突然、どちらの立場にもなる可能性があります。臓器移植とは、病气や事故によって臓器が機能しなくなった人に、他者の健康な臓器を移植して機能を回復させる医療です。

世界では、1960年代から医療技術の進歩や免疫抑制剤の開発により、移植医療は急速に発展してきました。一方日本では、脳死や臓器提供という新たな概念が、なかなか社会に受け入れられず、脳死下での臓器移植の実施は困難でした。この様な中、移植で救える命を救いたいという多くの人の想いが、1997年10月16日の「臓器移植法」施行に結び付き脳死臓器移植ができるようになって、20年が経過しました。日頃から臓器提供についてどう考えているかを家族に伝えておくことが大切で、意思表示カードや健康保険証、運転免許証、マイナンバーカードに意思表示ができ、インターネットでの意思登録もできます。1997年の臓器移植法施行に伴い発足したのが、(公社)日本臓器移植ネットワークです。

伝統継承 HR 2017

伝統継承ホームルームは毎年、1年生を対象に、第一東京市立中学校から九段高校まで伝承されてきた、独自の伝統を伝え理解してもらい、同時に菊友会を知ってもらうことを目的として行われています。

昨年6月28日に楢取理事長と理事11人が4クラスに分かれて生徒達と一緒に給食を食べ、その後、パワーポイントを使って話をしました。関東大震災後、東京市復興の一環として第一東京市立中学校が設立され、成田千里校長が就任。1927年、現在の地に当時東洋一と言われた校舎が完成。後に父兄の寄金により体育館、プールも建設されたこと、校長夫人デザインの前着、



菊友会理事の話真剣に聴く生徒たち (撮影:楢取能彦・高17)

校歌、至大荘、尽性園のことなど、短時間では伝えきれない盛りだくさんの内容でした。特に盛り上がったのは男子生徒をモデルに実演した「水禪の締め方」でした。

自分の高校時代の思い出が甦り、九段の素晴らしい伝統が後輩に継承されていくことを願いました。(大野和男・高21)

活動の様子がよくわかる生徒自治会執行部 生徒自治会会長 下村 海渡

今年度は中等教育学校になって以来の大きな変更がありました。例えば、登下校時にコンビニ等に寄り飲食物を購入することが認められたり、下校時刻を16時半に繰り上げ、自宅学習時間を増やしたりと生徒の自己管理能力や自主性をより重視するものとなりました。自宅学習時間が増える一方、専門委員会の活動時間は少なくなりました。しかし、執行部はそれを委員会との交流を深める良い機会と捉えて活動してい

ます。PR動画企画という新企画では広報委員会と制作協力をしています。11月には執行部の活動を大会議室で公開する企画をしました。今年度の執行部の「見える」というテーマに即している企画です。

今年度は全役員12人のうちわずか3人が経験者という厳しい条件で始まりましたが、定例行事の運営や新企画発案、オピニオンボックスの検討など様々な活動を行っています。全ての生徒が快適な学校生活を送れるように、執行部はこれからも尽力して参ります。

90周年を迎えた2017年度至大荘行事

至大荘開荘90周年おめでとうございます。

私は、7月29日に行われた至大荘開荘90周年記念式典に参加させていただき、引き続いて、初めて至大荘行事に参加いたしました。記念式典では、菊友会の皆様の至大荘行事に向けた熱い思いを直接伺い、改めてその歴史と愛校心を感じました。また、勝浦市長をはじめ地元の皆様の至大荘に向けたお話では、行事を支えてくださる皆様への感謝と心強さが心に残りました。

本年度は4月当初から、体育科の森淳也游泳部長を中心に引率教員を集めるために声をかけてもらったところ、早々に定数の37人の引率教員が集まり、本校教員の積極的な協力の気持ちを感じました。また、体育科の教員は生徒たちが海での泳ぎに自信をつけられるよう、授業で泳力向上に熱心に取り組み、さらに土日に至大荘で行われた漕艇訓練にも游泳部の教員が多数参加して、事前の準備や訓練に取り組んでいました。

至大荘行事は、初日は晴れて気温も上がりました。生徒たちは初めて入る守谷の海で波をかぶりながら思うように進めず、不安を感じていた生徒もいたように思います。しかし、游泳助手の皆様(先輩方)の厳しくも温かい御指導のもと、日に日に生徒たちのこの行事に対する気持ちの高まりが、はっきりと表情に

普及啓発事業部部長 雁瀬(兼岩)美佐さん(高31)

雁瀬美佐さんは薬科大学を卒業し薬剤師の国家資格を取得後、製薬会社勤務を経て、フリーのメディカルライターとして医薬に関する冊子やパンフレット等の執筆・作成をしていました。その中で、臓器移植に関する普及啓発を依頼され、(公社)日本臓器移植ネットワークの職員となりました。『人々が自分の身体についてよく理解し様々な治療法があることを知って、自分の価値観に合う選択ができる情報を発信したい』との姿勢はメディカルライター時代から今も変わりません。『臓器提供を死に際しての一つの選択肢として誰もが知っていれば、失われずに済む命を救うことができる』というその信念が、ドナーとレシピエントを結ぶ活動を支えています。

『臓器提供を勧めるのではありません。臓器提供によって救われる命について知り、健康な時に自分自身の終末期にどうするかを考え、家族で話し合い、意思を表示する。そして本人も家族も後悔のない決断をする。そのために必要な情報を提供し、その選択が尊重される社会作りが私の使命だと感じています』という言葉に、人から人へとつながっていく命の尊さを感じました。臓器移植は単に臓器を提供し、それを受けるのではなく、愛を分かち合うことがその基本にあります。



後期課程副校長 小杉 英夫



感動を与えてくれた至大荘



(撮影:倉又 茂・高21)

表れてまいりました。2日目以降、日差しもなく肌寒い日が続きましたが、海からあがってくる生徒たちが剛(つよ)くなっていくのを感じました。

菊友会の皆様が歴史を重ねてきた至大荘90年間の年輪、その中に九段中等の4年生が大きな経験と思い出を得て、新たな年輪を作り上げたと思います。

余談ですが、私の携帯電話の待ち受け画面はこの行事以来、至大荘です。感動は冷めやらず、行事が終わり東京に戻ってからも、私の耳の奥に至大荘歌が繰り返し聞こえてくるようでした。

菊友会の皆様方、今後も九段中等教育学校への御支援のほど、どうぞよろしく願い申し上げます。

絶望から希望へ ～ 大津波の象徴から復興の象徴へ ～

医療法人 慈誠会 理事長 猪又 義光氏 (高15)



福島県南相馬市大町病院猪又義光院長が理事長を務める、医療法人慈誠会の介護老人保健施設ヨッシーランドが大震災による閉鎖以来、6年9ヶ月ぶりに昨年12月1日にオープンし、新たな船出をしました。それに先立ち、11月19日には落成記念式典・祝賀会が行われ、私(高橋暁子)もお招きを受けて臨席しました。

大地震後の大津波により、海の見えないヨッシーランドが壊滅的な被害を受け、36人の通所者と1人の職員が犠牲になりました。正に信じられない予想外の出来事でした。当時、余りに酷いその状況にマスコミも近寄らず、どこから手を付けていいのか途方に暮れたと言います。絶望に打ちひしがれ、一時はヨッシーランドの事業継続を断念。しかし、高齢者の増加に伴う地域の強いニーズに応じて再開を決断。地道な努力と熱意によって再開への意志を貫きました。そして国の支援と地域企業

の協力の下、猪又氏所有の林地を寄付し開発して、困難な中にも敷地の除染・伐採作業を経て造成・新築工事に着手。こうしてヨッシーランドは海から森へと場所を移して、新しくスタートしました。

「このような施設ができるとは夢にも想わず、唯々、感謝感激です。一人ひとりの命を尊重し、生きていて良かったと思える施設にしていく努力をし、介護の未来を創り、地域医療に貢献したい」との猪又理事長の言葉には、地域の人々に対する優しさや愛情が溢れています。明治10年の開院から140年続く伝統ある地域の医療法人として、時の過酷な運命に翻弄されながらも困難に立ち向かい、ひたすら地域のためにと立ち上がった猪又理事長のぶれることのない強い意志に頭が下がります。新生ヨッシーランドを心から応援したいと思います。



森の中に佇む新生ヨッシーランド(写真提供:慈誠会)

九段祭今年も盛況でした 『百花繚乱 ～ 咲き誇れ九段生 ～ 』

毎年レベルの高さに驚かされる九段祭。昨年、9月23・24日に開催されました。前期課程(1～3年)は各教科の展示、夏休みや授業での作品、オルゴールや沈金のお盆。後期課程(4～6年)の4・5年生はクラスごとのパフォーマンス。公演時はどこも満員で長蛇の列。文化部も日頃の精進の成果をこれでもかと見せています。もちろん菊友会にいつも協力してくれる吹奏楽部、演劇部、書道部も力が入っていました。一昨年の菊友会大会での高木厚人氏の「かな書」の講演の成果もあり、書道部には「かな書」の作品が展示されていました。また、6



花とともに飾られた「かな書」年生の教室には卒業研究が展示され、A4一枚の要約もよくまとめてあり、自らの高校時代と雲泥の差があることを認識し、九段中等教育学校の教育の高さと送り出していく人材の将来が楽しみになりました。

(撮影/文:原田忠禮・高21)

九段生が快挙！世界的コンクールで優勝

世界三大コンクールのひとつ、チャイコフスキー国際コンクールのジュニア部門である、「若い音楽家のためのチャイコフスキー国際コンクール」が昨年、6月24日にカザフスタンの首都アスタナで開かれ、ヴァイオリン部門で、九段中等教育学校3年の河井勇人君が出演し、見事、第1位となりました。中等教育学校からは2009年にも、当時、2年に在学中だった上野通明君が日本人として初めてチェロ部門で第1位を獲得。河井君は中等教育学校では2人目の快挙です。世界中から才能ある若い音楽



家たちが集まる中で、日本のしかも同じ学校から2人も、国際コンクール中最難関の大会で優勝者を輩出するという事はめったにない、凄い！ことです。

(高橋暁子・高17)

投稿ページ ~同期会・クラス会・OB/OG会など

お詫び：投稿文書は、一部短縮編集させていただきました。

高19 卒業50周年記念同期会

梅雨の合間の好天に恵まれた6月24日、青春の思い出を抱く人も多い渋谷の街で卒業50周年の同期会を開催、太田弘先生、久保木哲夫先生、伊部哲先生にもご来臨頂いてエクセルホテル東急に同期114人が顔を合わせました。ホテルの従業員が「一体どの方が先生なのですか？」と見分けがつかないほどの爺ばばが飲むほどに高校時代にタイムスリップし、あっという間の2時間半

を過ごしました。また、今回はアトラクションとして先生方の近況やご趣味、九段高校出身の先輩や歴史を題材にクラス対抗クイズ大会を実施、豪華？賞品をかけた熱い闘いが更に会場を盛り上げました。最後に次期幹事と幹事長を選出、挨拶の後全員での記念撮影。次回、全員が古希を迎えての再会を約して閉会、同じフロアに用意した2次会会場には仕事で一次会に出られなかつた仲間も馳せ参じてくれて充実した一晩となりました。なお、当日のスナップは

<https://ameblo.jp/ousamaameba-kudan19>で閲覧できます。
(齊藤眞一・2組)



高2(中21) 同期会

10月10日新宿三井クラブにて26人(夫人2人)で開催。菊友会楯取理事長も参加、学校の近況、行事予定を拝聴。野村昭光君の乾杯で開宴。出会いから67年間の新旧の話題で和やかに過ごしました。定例開催日(体育の日翌日)まであと2回、秋山和義君の中締めで次回の再会を約して閉会。今年は10月9日です。(一色昭吾)



高3 第29回菊朋会

11月8日(水)正午から有楽町の綴(つづり)・糖業会館で開催。出席者は28人。

行方会長の挨拶、物故者への黙禱に始まり、特別参加の菊友会高橋暁子広報担当理事による母校の近況報告、菊友会費維持への協力要請のあと、和やかに会食、懇談が行われた。その後、同期生によるスピーチがあり、政治評論家の田久保忠衛君による時事問題、元・太田日赤病院長の小泉桂四郎君による老人の健康管理、そばの名店・神田まつやの当主である小高登志君の談話など、有意義な話を聴くことができた。会員は85歳前後で、年々出席者が漸減しているが、まだまだ頑張っていて、今後とも当会を継続していくこととした。(中川 繁)



高44 卒業25周年記念同期会

12月2日、ホテルモントレ半蔵門におきまして、高校44回生の卒業25周年記念同期会を開催いたしました。当日は恩師である勢畑多恵子先生、安達洋子先生、田中武夫先生、山下稔先生、森谷隆先生をお迎えして、総勢109人で盛況に終わりました。菊友会からもご支援をいただき、当日は久しぶりに逢う変わっていない顔と、恩師との思い出話や懐かし写真スライドショーなどで盛り上がり、最後に校歌と至大荘歌の

大合唱であっという間の3時間でした。夕方の二次会から参加する人も多く、笑いの絶えない素敵な1日を過ごしました。
(小林利浩)



高4 第64回至高会

1952年卒業の「至高会」は、毎年ホテルグランドパレスで開催している。会を重ねて今回は64回、25人の参加メンバーは83歳～84歳になったが、論壇風発で毎回時間が足りないのが悩みだ。今回も菊友会から、お祝いに楯取理事長と青木理事が駆けつけられた。今も各界で活躍のメンバーが多いが、今回は先日読売新聞の「時事川柳」投稿者の最優秀賞に輝いた坂本敬彦君が、優勝カップをもって参加した。席上、定例日の9月は近年残暑が厳しく、高齢者の出

席に配慮して、次回から定例日を10月第二金曜日に変更することを決定した。今年の第65回の10月12日(金)を予約し、次回も元気な顔での再会を期して閉会した。
(長谷川明)



高7 7回生の集い

夏の七九会が7月22日ペルランで開催され27人の参加を得ました。80歳を越えても皆元気に60年前の九段高校時代の懐かしい楽しい話で盛り上がりました。お互いのパワーの交換が励みになり、若返りに

役立った様子です。秋の七九会ゴルフコンペが秋晴れの佐倉カントリーで11月2日に開催。お蔭様で今回で第50回目の開催。スコアはともかくワンラウンド元気にプレイ出来る事が最高の幸せとなる年頃になりましたが、まだまだ多くの方が元気に参加されます。平成30年も春5月24日と秋11月1日に開催を決めました。各位のますますのご精進を祈るばかりです。(宮島 徹)



高5 菊五会

10月14日(土)正午～東京新宿区・四谷クラブで参加者は36人(男28人、女8人)。

同期会とは面白いのだ。卒業して60年以上も経つのに、いまだに初参加という人が姿を見せる。今回もそうだった。

そして年明け2018年の干支は戌年。1934年生まれが多い5回生は、約4分の3の人が7回目の年男、年女を迎えた。

でも、戦中・戦後の食糧難時代に育ち「長生きできない世代」とまでいわれた身からすれば、これらは全て想定外の出来事。よく生きてきたものだと思う。(後藤 基)

原稿のお願い

菊友会報次号101号に原稿をお寄せください。同期会・OB会の開催の楽しい報告や母校の思い出など、250字程度、写真は500KB程度で事務局までメールまたは郵送をお願いします。締切は5月15日(火)

高10 同期会

好天に恵まれた9月30日、第14回目の同期会が一昨年喜寿を祝った神田エスペリアにて70人が参加して開かれた。服部親禧君の司会でまず一昨年以降の逝去者への黙祷、高橋伸和幹事代表の挨拶、そして外岡功君の乾杯発声にて約2時間の宴が始まった。途中、藤田和彦君の余興等もあって楽しく過ごし、最後に恒例の根岸紀雄君指揮の校歌、至大荘歌でお開き、語り足らずの30人近くが同場所での二次会へ、更に何人かの強者は夜の神田へ繰り出して行きました。今日は皆が1年に1度だけ60歳若返った日でありました。(高橋伸和)



高15 3年4組クラス会

クラス会開催を祝して前日迄の雨も上がり、青空のもと会場の銀座ライオン新橋店に元気な面々が正午に集合。ここは駅から徒歩5分、ビール・料理・雰囲気よし・値段手頃のクラス会永久会場。仲間が来る度に乾杯、14人が揃う頃には出来上がって、いよいよ本番。楽しい話題が最高のつまみは本当ですね。二次会へ繰り出すいつものように午前様になった強者続出。次回は今年3月の第2金曜日です。(幹事：四ッ倉緑 山田清三)



高31 3年6組クラス会

10月21日(土)、飯田橋サクラテラス2階ルッコリーナ。二次会からの参加者を合わせて26人。関西方面からの参加者も。今のマイブームについて一言ずつ語った後、お互いの近況報告、10年ぶりのクラス会、まるで昨日まで毎日会っていた仲間のように、二次会の「北海道」、三次会の「カラオケ

高28 3年1組クラス会

7月1日、目白のホテル椿山荘。毎年7月の第1週の土曜日開催を継続して実施、男性15人、女性7人、合計22人の参加。岡本先生の喜寿祝いと自分達の還暦祝いを兼ねて、先生への感謝状や思い出話をたくさん記載した色紙の贈呈、女性へのお花のプレゼントなど色々なサプライズもあり、今年は30人の参加を！(高山幸彦)



高28 還暦祝い同期会

11月5日 東天紅・東京国際フォーラム店にて還暦同期会を開催。82人の同期が集い、岡本先生・近藤先生・若林先生・渥美先生をお招きして楽しい時間を過ごしました。残念ながらご欠席だった鈴木先生と和田先生のお手紙が読み上げられました。同期会は卒業30周年以来12年ぶり。久しぶりに会った友との語らいはとても楽しく皆で還暦をお祝いしました。遅くまで二次会で盛り上がったクラスもありました。同期の植田修平君デザインの手拭いはとても良い記念となりました。(魚住照代)



高19 2017年のトーク会

4月ゴルフコンペ、5月テニス会は残念ながら雨で中止。9月は貸切り屋形船で、初秋の水上散歩を楽しみました。揚げたての天ぷらにお酒、隅田川からお台場へゆくと暮れる空、海上から眺める都会の光に至福のひと時を堪能しました。10月は御殿場へゴルフ&テニスの1泊旅行。東富士GCでのコンペは青空の下、富士を背に記念撮影。翌朝のテニスは台風の雨で断念。代わりに箱根芦ノ湖や紅葉の始まりを眺めながらドライブしました。(青木麗子)



の鉄人」へと。今回来られなかった方も次回はずい！(櫻井慎吾)



逝去 謹んでご冥福をお祈り申し上げます
前号以降にご逝去が判明した方々(敬称略)

九段高柔道部還暦OB会

11月第3土曜日開催の還暦OB会は、木ノ本正夫君(高15)の冥福を祈る黙祷で始まり、最長老高7から初参加の高27まで34人の参加で恒例の新橋亭で賑やかに開催されました。H30年11月17日は高28回生(昭51年卒)の参加をお待ちしております。(高井信義・高13)



水泳部・一游会OB戦 in 2017

10月9日。中等1年生から団塊の世代まで、一緒になってレースに熱中。当日は、「旧プール コースナンバール記念碑」の除幕式も。新プール完成を祝い建立した記念碑であったが、30年以上の歳月を経て、この度リニューアル。1987年当時の碑文を残しつつ、新しい碑文には、その後の変遷記録も刻んでいる。プールにお越しの際には、是非ご覧いただきたい。〈水泳部のアルバム等の配布のご案内〉1980年代からのアルバムやトロフィーが母校の部室に多く残されています。ほとんどの写真はデータ化したため、年度末には処分しますので、実物の受け取りをご希望の方は、一游会公式サイトもしくはFacebookページを通して、ご連絡ください。(飯島瑠玖・中等4)



高22 3年1組クラス会

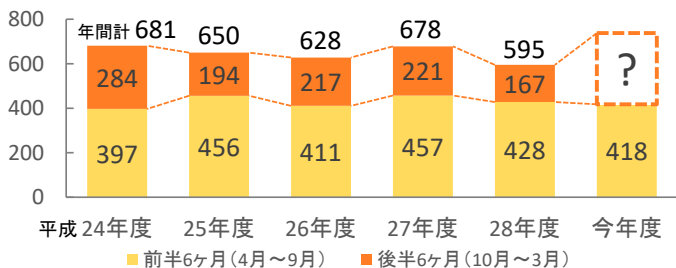
6月18日竹橋のKKRホテル、恩師太田弘先生を囲んで開催。3年毎が定着し、熊本、兵庫、愛知など遠方から参加も、25人が出席。多くが既に退職、懐かしい卒業アルバムを眺め昔話や孫の話、健康談義に花、和やかな中で全員スピーチ。先生は80を超えられた現在でも車で遠出。次回は2020年オリンピックの年、我々の卒業50周年。3年後に全員元気に再会することを約束して終了、学士会館での二次会に。(稲蔭 覚)

会員専用ページでの掲出とします。

会費納入のお願い

菊友会の活動は皆さまの維持会費に支えられております。納入していただいた方々に厚くお礼を申し上げます。

前年度の維持会費納入額は過去10年間で最も少ない595万円でしたが、今年度の4月から9月までの6ヶ月間の納入額は、前年度の同期間のそれよりも更に減少しております。このままでは予算額630万円に達しないだけでなく、前年度の実績をも下回るおそれがあります。過去5年間の維持会費納入実績は下グラフの状況です。(単位:万円)



平成24年度のように前半6ヶ月の納入額が低くても、後半6ヶ月に挽回した年度もあります。まだ遅くはありません。過年度分の維持会費を払っていないため、今年度分のみを納入するのに躊躇している方がいらっしゃるかもしれませんが、維持会費は今年度分からでも結構ですので、一人でも多くの方に納めていただきたく切にお願い申し上げます。

維持会費は菊友会報の制作費のほか、菊友会大会などの行事費、在校生・卒業生に対する支援費などに充てられております。それらを継続して行うためには皆さまのご協力が必要です。よろしくお願いたします。(会計委員会 渡辺憲雄・高19)

理事会だより

定例理事会は毎月第2金曜日に母校のメモリアル室にて開催。理事は各行事の企画・運営に携わり、また母校の行事や各同期会に参加し会のPRに努めています。理事会の主要議事は以下の通りです。

●6月度●

5月20日評議員会を開催、出席者17人・委任状提出者42人。九段中等教育学校体育祭に赤司会長以下理事5人が出席。中等8回卒業生142人の内会員登録者134人、入会金納入者91人。未納者の保護者に督促状発送。99号編集完了、印刷開始を決定。

●7月度●

伝統継承HRを実施、理事11人で4クラスを担当。6月16日PA懇親会が開催され、会長・理事長が出席。新理事候補に百束英二氏を提案、承認。98号掲載の大町病院レポートについて、高橋理事より報告。高19回50周年同期会より菊友会に8万円の寄付。広報委員会よりホームページの整理状況を報告。

●8月度●

7月29日 至大荘90周年式典

を至大荘にて法人九段主催で開催。菊友会から会長以下9人が出席。8月5日現在の九段中等8回生の入会金納入は95人。

●9月度●

至大荘懇親会は、91人の参加があり、全ての行事とプレゴルフも無事終了。会報100号に100号記念の特集記事を入れることなど編集作業開始を報告。

●10月度●

第12回九段祭が開催された。東京校歌祭がサンパル荒川で開催され、菊友会役員含めて32人が参加、例年通りに母校の吹奏楽部からも30人が応援参加。第64回菊友ゴルフ大会を石坂ゴルフ倶楽部で開催。広報委員会から会報郵送費用が今春より1通64円に値上げされることを報告。法人九段よりボランティアグループ「おもいつき」と至大荘との関係について説明。

●11月度●

6年生保護者に対して、菊友会説明会を実施。菊友会大会の報告。クロスカントリーレース表彰メダルを発送。次年度菊友会のイベント日程を決定。

平成29年度維持会費 (平成29年4月~平成30年3月)

中1 ~ 中等3回 3,000円

中等4 ~ 中等8回 1,000円 (減額期間)

●郵便振替

※住所・氏名・電話番号・卒業回・個人コード(会報封筒に記載の個人コードXXXXXXの6桁の番号)をお書きください。払込手数料は菊友会で負担します。

●銀行振込

三菱東京UFJ銀行	神保町支店	普通口座: 0691551
みずほ銀行	九段支店	普通口座: 1453238
三井住友銀行	神保町支店	普通口座: 2111680
りそな銀行	九段支店	普通口座: 1413234

※口座名義はすべて菊友会です。恐縮ですが、振込み手数料をご負担ください。

※平成29年11月30日現在、今年度維持会費未納の方には維持会費納入票を同封致しました。

※銀行から納入する場合、振込人欄の先頭に個人コードを入れてください。

同期会などのお知らせ

高20 同期会 卒業50周年記念

日時: 2018年6月23日(土) 午後2時~
場所: ホテルグランドパレス(九段下)
会費: 8,000円(予定)

高13 同期会 (事務局:高井信義、馬淵義彦)

日時: 2018年4月15日(日) 受付11時半~
場所: 百代茶屋 田町店
(1次会着席buffet 5,000円、2次会お茶会 500円)
1月中に案内状を送付、2月末までに返信願います

吹奏楽部 第10回定期演奏会

日時: 2018年3月21日(水・祝) 開演14時
場所: 武蔵野市民文化会館 大ホール
菊友会後援: 入場無料

菊友会事務局より

- ①住所、改姓等会員情報の変更時には事務局に連絡を!!
- ②同期会・クラス会などで菊友会報未配達の方がおられましたら、名簿上では連絡先不明の方です、是非ご連絡ください。
- ③同期会・クラス会・OB会等の開催のお手伝いをしています。
- ④ご連絡はFAX、メールで。火曜・金曜(11時~16時)は電話でも受け付けています。

編集後記

最近、文部科学省の初等中等教育関係の審議会の傍聴に行きました。今100号を超えていくのに際し、この現代の役割の一端を担う会の会報に携わるものとして気持ちを新たにします。また、先生への負担が大きいところ。会報の第1号=創刊時の熱い時代を振り返る特集から、九段の奥深いものがまだまだあることが分かります。これらを掘り起こして、中等教育学校の生徒も含めて、皆様に伝えていけたらと思うところからの課題でしょう。会報も諸 (倉又 茂・高21)

菊友会報

第100号
第1号
昭和31年11月1日
(木曜日)発行

第一東京市立中学校・東京都立九段中学校
同窓会機関紙

菊友会
東京都千代田区九段二ノ四
部立九段高等学校内
電話九段(33) 3341・8105番
発行責任者 伊藤 義 彦
編集責任者 笠 井 幸

菊友会報は昭和三十一年十一月一日の第一号に始まり、平成三十年一月一日の平成で第三十号を迎えました。幾多の紆余曲折を経ながら一度の休刊もなく、先輩から後輩へと脈々と繋がれたという事実は、正に九段の伝統継承であり菊友会の誇りです。六十一年の年月報の行方を皆さんと考えていただけたら幸いです。



菊友会報 第1号 1頁

第一東京市立中学校の同窓会報創刊号が発刊されることになった。終戦後十年を経て、その名もかわった東京都立九段高等学校同窓会の名においてこれに会員各位にとって感無量のことであろうと思う。何はともあれ、うれしいことである。

会報の創刊を祝う

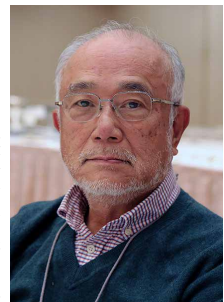
第二代校長 四宮 茂

狭い試験競争の利己主義を超越して、クラブ活動や至大庄生活で同じ血を燃やして暮らした魂の盟友、広い深い人生観に根ざして、至大至剛を語り合った一中精神の同窓が、終戦のどさくさにたいて肉体的に離散の憂き目を見ようとして、精神的に離れ離れになろうはずはなかったのである。会員各位の消息はこれまでにも案外よくお互いに熟知し合っていた。第にクラスごとの会合は早くから旧クラス担任の先生を中心に繁々と行われ私も忘年会や新年会などのある時節には、すべてのクラスにでるといわけには参ら

もうひと昔も前の話だろうか。菊友会の広報担当の理事になって、菊友会報を発行したことがある。当時、会報発行には、財政的理由で、もっとと安くできないか、という理事会からの要請があり、手作りに心がけるあまり、みつともない体裁にならなりました。菊友会報の歴史が始まった。そのことを思い出すと、いまだに、悪夢から覚めた時のように、冷や汗が出る。今では、立派な会報になっていて、体裁・内容共に申し分ないものであるが、当時、考えたことをベースに、会報の在り方について、一言述べてみたい。

ほろ苦い思い出、菊友会報

海野 暁 (高9)



撮影：倉又 茂(高2)

母校の発展に寄与することを目的とする、とあって、第三条(事業)に、前条の目的を達成するために次の事業を行うとあり、(一)会員名簿及び発展に寄与する、ということ

菊友会報の紙面からは見られないような気がする。会が目的とする事業がほかにもあるので、会報が母校の発展に寄与する、ということ

をそれほど深く考える必要はない、と云えばそれまでだが、会報の趣旨からして、読者が誰なのか、そして、例え、卒業生の叙勲者、有名人。私の知っているだけでも十指に余る。その人たちのインタビュー記事を載せるなど。母校、現役生、保護者が知りたいような情報を発信していく。できれば、現役の新聞部の生徒に、インタビューはしないと思うのだが。

アーになってもらおう、など。こうしたローカルな情報を読者に届けていくことが、新会員につながるし、会費の納入率も上がるし、いろいろなところで、会の発展に寄与することになる、と思う。九段高校の卒業生の中には、われわれに母校は無い。九段中等教育学校は母校ではない、という連中も多々いる。しかし、菊友会は九段中等教育学校は母校であるとして、その気分の相違を埋めるにも、母校を認知し、その溝を埋めていく役割を菊友会が担っていることを考えれば、会報の使命を会員の親睦を図ることだけに、止めるべきではないと思うのだが。



高注目度は、逝去欄と進学先 会報に関わる以前に、記憶している記事が二つあります。ひとつは旧校舎解体の日になかにし礼(高九)氏の詩文。

会報カラー化の時代のこと

田ノ倉 美保子 (高15)

立九段中等教育学校の開校を報じて四頁増。その頁をカラーにした岡田肇(高十)委員長は「清水の舞台から飛び降りる気持ち」と言われまして、実に新鮮でした。翌号から委員長を預かった私が、数字を基に全員カラーを主張して存外すんなり理事承認を得られたのは、内輪

ではあつてもこの時のインパクトが強かったのだと思います。全卒業生に届ける。編集費は会費収入の六割近くを占めますがその八割方は送料でした。カラー化と並行して郵便からメール便にし、

費用軽減に努めました。環境変化に応じて、送り届ける方法は今後も検討課題であり続けるでしょう。編集手法しかからず印刷方法しかりですが、送料の重さに理事会が負け

現場に行けなかった「私たち」の想いを余すところなく代弁してくれ、満足感を覚えまして。もうひとつは某紙コラムからの転載記事糸川英夫(中)氏のお手製ヴァイオリン

資料として、第1号以来の各号の編集の仕様を以下のようにまとめてみました。本来は全号を上げたいところですが、おおよその流れがわかるように10号ごとのデータです。大きな変化としましては、第1号から第8号までが、タブロイド判4ページ墨色1色で発行され、第9号からは現在の判型であるA4判8ページで墨色1色となり、第60号からA4判8ページ横組の墨色1色に、続いて第61号からA4判8ページ2色化となり、第77号からカラー化を行ない、現在の仕様で100号に至っている、という歴史となります。

Table with 4 columns: 号 (Issue No.), 発行日 (Issue Date), 判型・ページ数 (Format & Pages), 発行・編集 (Publisher & Editor). It lists details for issues 1, 10, 20, 30, 40, 50, 60, 70, 80, and 90.



菊友会報 第10号 1頁



菊友会報 第60号 1頁

速に受験重点主義へ、「これが九段の歩み振り返る記事が掲載され、深まる予備校化の傾向」...



九段はこう変わった! 戦後11年、九段の歩み

九段新聞部の先輩で腕前の信頼で、九段新聞の先導で腕前の信頼で、九段新聞の先導で腕前の信頼で...

菊友会報第一号の時代とは

特集ページの編集後記 百号記念特集ページは、「どうして菊友会報を作ることになったのか」という経緯を知ることで、これからの編集の参考にしたいと考え編集しました。

段の現在だ、東大への合格数で他校に及び目、重荷になった一中の名... 菊友会報第一号の時代とは

菊友会報 号を読んで 錢功(高3) 廊下の講堂への楽屋に上る 会報一号を理事さんから貰って読んでみた。始どは僕らの時代の頃のことなの...

菊友会報創刊号に関わったと想われる方を探そううちに、昭和23年創刊の「九段新聞」の編集関係者が第1号の編集にも関わったことが判りました。

僕は昭和二十一年に第一東京市立「九段新聞」と似ている雰囲気の中学校に入りました。いつの間にか都立九段高校に変わってしま...



創刊号は出版委員会の協力で完成! 神戸常雄(高3)

一つ目は、見た目のキャッチです。楽しいとか面白いとか。二つ目は、読みやすいことです。三番目は、「あーこれは読みたいな」という内容があることです。四番目は、事務的なことではないし入れなければならぬという思いです。五番目は、世界的水準では感性が、ピカッと光っていなければいけない。この五つなんです。難しくはない。大事なのは企画ですね、どういうことを読ませるか、それがすごく大事です。これがどうしても読みたいと言っているのが毎回欲しい。そして、本当に読ませるなら縦組みがいいんです。ただグラフィック的にしたから上は全部写真にするとか、でもマンガは要りますよこれから。以上が、私のアドバイスです。よくお考えになって、編集してください。世界一の菊友会報を作るといふ努力は楽しいと思いますよ。(編集・広報委員会)